

Ⅶ 外来種の監視と防除

<主要施策の取組状況>

1 外来種の監視と侵入未然防止

① アライグマ等の外来生物の情報収集と監視

- ・ アライグマ防除実施計画に基づき、市町村に寄せられた捕獲情報・目撃情報を収集するとともに、各種調査で設置した自動撮影カメラの撮影記録からアライグマ情報を収集した。その結果、山地域や奥山域でのアライグマの生息情報は得られなかった。
- ・ 地域ぐるみの鳥獣被害対策の立ち上げを支援した、重点取組地区（Ⅲ-1-①参照）である綾瀬市において、専用捕獲器による捕獲を試行し、地区内の工場関係者への研修会等を行った結果、地区内の被害が減少した。

2 丹沢産緑化苗木の育成及び生物多様性に配慮した緑化手法の検討

① 丹沢産の緑化種子生産・苗木の育成

- ・ 水源の森林づくり事業等で使用する広葉樹 [16種]（「水源林整備の手引き(平成 29 年 3 月)」）の安定的な供給を図るため、堂平で種子トラップを設置した。しかし、台風 19 号（令和元年 10 月）被害により、種子の回収が不可能となった。また、他の地区も不作や通行止めで現地へ行くことが困難となり、種子の採取は限定的となった。
- ・ 県立 21 世紀の森に設置した、丹沢産等の母樹で育成したキハダ採種園で種子を生産し、苗木生産者が播種、育苗を行ったほか、母樹候補木等から種子を採取・精選し、発芽率、成長量調査及び生産量調査を実施した。

② **FS** 生物多様性に配慮した緑化手法の検討

- ・ 平成 27 年度に林道の法面緑化として施工した林道法面の簡易法枠工内の無種子厚層客土吹の施工地において、植生の経過を観察した。その結果、自生種木本の侵入・定着により法面緑化が図られていることが確認された。

○専用捕獲器によるアライグマの捕獲



○トラップ設置によるブナの種子採取



○丹沢産広葉樹の種子採取状況



○無種子客土吹付工施工3年後の自生種定着状況
[相模原市]



○事業実施位置図（位置情報のある事業のみ掲載）

